

弥生を迎えて

分所長 高木 敏彦

寒かった今年の冬でしたが、日も長くなり樹々の芽も膨らみ始めました。オミクロン株のコロナウイルスの猛威もようやく沈静化の兆しが見えてきたようです。もう少しの辛抱で長かったコロナウイルスとの闘いに終止符を打ちたいものです。

さて、皆様方の随筆をまとめた「碧風」が来月にもお配りできる見込みになりました。題字は藤浦さんをお願いして頂けました。楽しみにしてお待ちください。

東北日記(四の巻)より

出口 王仁三郎

死というものは人間にとつては最も大切な大峠である。階段である。霊肉分離の時をもって普通一般に死だという。いかなる思想いかなる境遇の人間も死というものの境界に想いを致した時は、何らかの感慨に打たれないものはない。虚心虚無の境に入ったと平素言っている悟道者も、また相当の寂しみを有するのが常である。いわんや俗人においてをや。現世に対して執着の感想を強くするとともに行く末に對しての欲求が沛然として台頭してくるだろう。かなりの屁理屈を囀って飯を食っている間は、別にその本心に衝動はないが、さて口でこそいるいろと強そうなことを言っている、それがい

よいよ何日の何時に汝の生命いな肉体は破滅すると断定された時には、人相当の思いを致すは事実である。それが各人各様にそうした事実が運命づけられていながら、明らかでないから良いようなものの、的確に断定されたら、かなり強烈なる衝動を感じるであろう。万事は天運と諦めてみようと思つても、それは生に對する欲求があまりに強い為でできにくい。未来は天国へ行って復活するという確信があつても、それが時間的に断定されたら、どうしても心魂がグラツイてくる。

死の境に直面して真個に微笑して行くという人は、大本信者のほかには断じてないだろう。一段の宗教家らしい人も、信仰者も、精神修養者も、道徳体験者も、既成宗教のいずれの派の信徒も真個に微笑して心から嬉しく楽しんでニコヤカに死につくものはない。故に吾人は地上一般の人々に対してこの大問題を解決し、心の底から安心立命させたいがための日夜の活動を続けているのである。

主な行事予定

三月一三日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当 第一班

三月二〇日(日) 午前一〇時より

三河本苑月次祭・全体会議

三月二七日(日) 午前一〇時～一六時

分所長・支部長研修会(対象者 分所長、次長、総代)

四月一〇日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当 第二班

四月一七日(日) 午前一〇時より

三河本苑月次祭

四月二四日(日)

万祥殿献勞奉仕

三河本苑春季大祭奉納冠沓句

冠句題 天地(あめつち)の

自らの 永久に

沓句題 振り返る

締め切り 本苑四月一七日(日)

三月の誕生者

おめでとつございます！

奥谷建二 三月八日 松村征哉 三月九日

北條幸代、藤浦公明 三月一〇日

粟津夕理 三月一五日 蒲生陽菜 三月二〇日

縦山美智子、高橋政明 三月二一日

山田奈夕 三月二三日 高橋いずみ 三月二八日

榊原怜 三月二九日

蒲生奈々、大塚海音 三月三〇日